

「大坂の史跡を訪ねて」連載27回目

大阪城周辺(その6)

オサタニ ヨシハル
長谷 吉治

※連載6回目～10回目で特集した「大阪城周辺」に再度焦点をあててみました。

大阪城（大坂城）

中央区大阪城1-1

- ▶ 連載8回目で大阪城の特集を組みましたが、そこで取り上げた中でも幕末・明治期に関連する史跡をもう少し詳しくご紹介いたします。

1 大坂城 天守閣

- ▶ 徳川期の大坂城天守閣

大坂夏の陣で豊臣家は徳川家に滅ぼされ、豊臣期の大坂城天守閣は、この時焼失しました。それから5年後の元和6年(1620)、第2代将軍徳川秀忠の命により大坂城天守閣の再建が始まり、寛永6年(1629)に完成します。

豊臣期の天守閣があった場所よりやや西に築かれ、規模も豊臣期のそれより2倍大きいものでした。現在残っている石垣はこの時期(徳川期)のものでした。

しかし、完成からわずか40年後の寛文5年(1665)1月、落雷により天守閣は焼失しました。現在の大阪城天守閣は昭和6年(1931)に完成したもので、約270年間 天守閣はありませんでした。幕末時代劇における大坂城のシーンで、大坂城天守閣が登場しますが、厳密に言いますと、天守閣があるとおかしいという事になります。



大阪城天守閣



大阪城二の丸千貫櫓
元和6年(1620)に創建され現存している貴重なものです。
重要文化財に指定されています。



大阪城二の丸千貫櫓
年2回特別公開されています。



2 本丸御殿跡

①本丸御殿跡

本丸御殿は、現在の天守閣前にある大きな広場「本丸広場」にありました。本丸御殿は寛永3年(1626)に完成し、落雷などで焼失することなく幕末期まで存在していました。

②白書院跡

本丸御殿の中にあつた白書院は、幕末期に徳川慶喜が外国公使と謁見した場所として有名です。玄関を入った左手奥になり、現在では土産品&お食事店辺りになります。

③黒書院跡

黒書院は将軍の日常における公的な居間でした。玄関から正面奥にあり、現在では天守閣の真下あたりになります。

④銅御殿跡

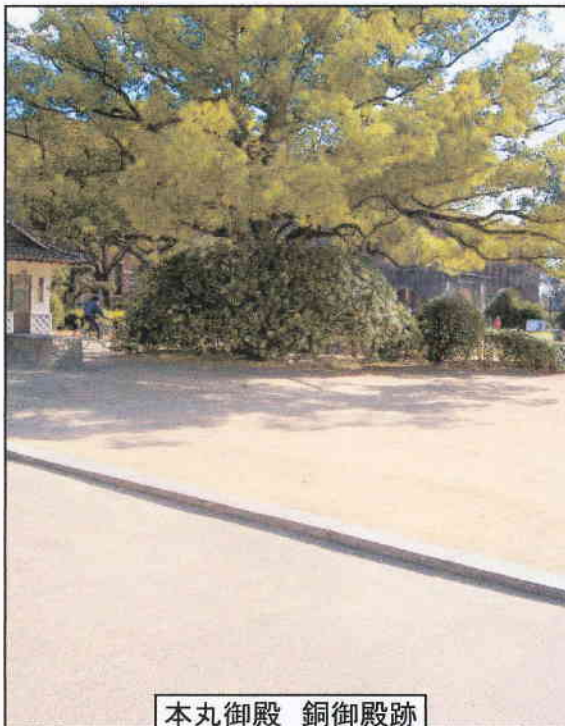
銅御殿は将軍の私的な居間・寝所にあてられ、黒書院の東側にあり、本丸御殿の最も奥に存在しました。



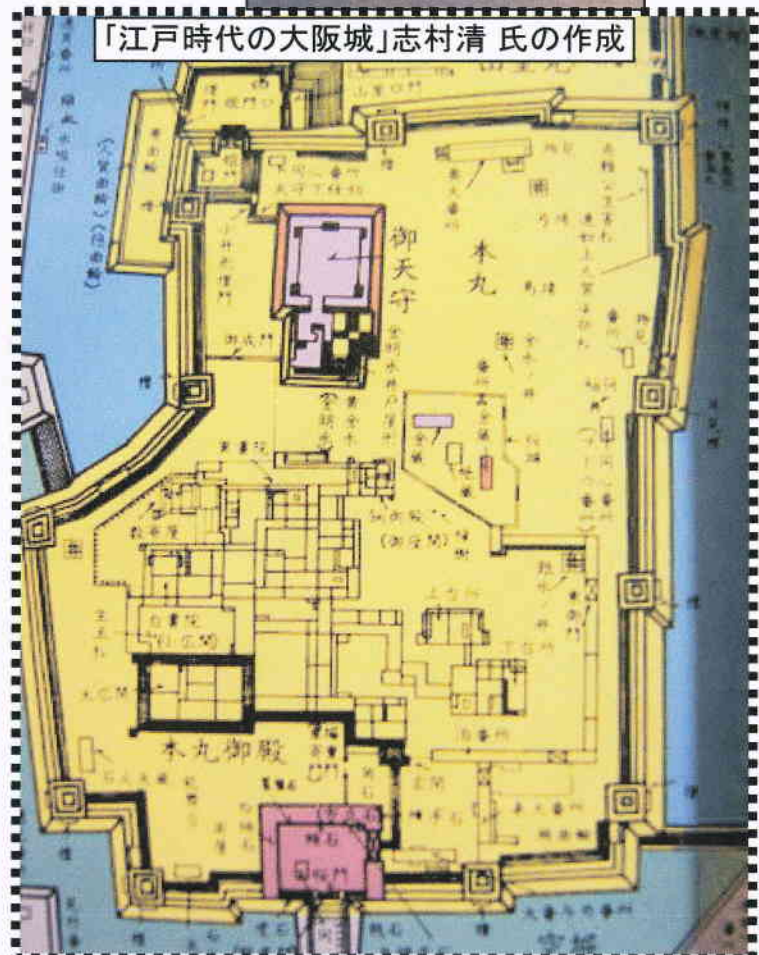
本丸御殿跡(天守閣前本丸広場)



本丸御殿 白書院跡



本丸御殿 銅御殿跡



「江戸時代の大阪城」志村清氏の作成

3 第14代将軍 徳川家茂 大坂城(本丸御殿)入城

①第14代将軍 徳川家茂 1回目の大坂城入城(将軍の入城は230年ぶり)

列強国の圧力により、幕府は大老 井伊直弼の断行で開国をしたものの、全国で尊皇攘夷が激化します。

異人嫌いであった孝明天皇は、幕府に対し攘夷の実行を迫るようになります。

そのため文久3年(1863)3月、第14代将軍徳川家茂が自ら上洛をします。

第3代将軍徳川家光以来、230年ぶりのことでした

このとき「攘夷実行期限を5月15日」と約束させられることになります。

家茂は4月21日京を後にし大坂城に入ります。将軍の大坂城入城は、これも家光以来となります。

この頃、勝海舟は京都、大坂、神戸等で奔走しており、勝海舟日記の文久3年4月21日～23日は次のように書き記しています。



第14代将軍 徳川家茂

<「勝海舟」日記より>

(文久3年4月21日)

「(前文省略)京橋口御船着場まで 御迎えの為参上。

夜五ツ時、(家茂が)御船着、御入城、(海舟が)深夜退出。」

(文久3年4月22日)

「(大坂城へ)登城。明日、(家茂が)順動船にて兵庫西宮辺へ成らせらる旨仰せ出され、夜に入り御治定。」

(文久3年4月23日)

「(前文省略)天保山へ到り、順動船に到る。端舟にて同所へ(家茂を)御出迎え、御先きへ漕返す。四ツ時ごろ、御本船順動へ御乗船、即刻出帆。船間悉く御巡覧、御満足の由、度々上意これあり。当将軍家、いまだ御若年といえども、真に英主の御風あり、且、御勇氣盛んなるに恐服す。(途中省略)神戸へ成らせらる旨命あり。御供同断。同所にて操練局御開き、且、土着の者置くべき事を言上、直ちに英断あり、御前に於て仰せ出され、議悉く成る。(途中省略)夕刻、天保山沖へ御帰船。

直ちに御登岸、御供にて(大坂城へ)登城。深夜退出。」



②第14代将軍 徳川家茂 2回目の大坂城入城(新年の祝賀返上)

1回目の来坂の翌年、文久4年(1864)正月8日に2回目となる大坂城入城を果たします。

この時は海路で幕府艦隊8隻を率いて来坂します。前年の12月27日翔鶴丸に乗船。下田の宿泊先である海善寺で元旦を迎えます。船旅途中で新年を迎えるのは異例で、将軍であるだけに尋常でないことがわかります。恐らく歴代将軍の中で、新年を宿泊先で迎えたことがあるのは家茂だけではないでしょうか。

家茂は正月14日に上京。長期間滞在後、5月7日大坂城へ帰城します。

勝海舟の案内により幕府艦隊3隻で天保山より兵庫～友ヶ島～堺を巡廻しています。

同月16日、海路で江戸に帰ります。

③第14代将軍 徳川家茂 3回目の大坂城入城(第二次長州征伐総指揮)

慶応元年(1865)閏5月25日に3回目となる大坂城入城を果たします。これまでは上京するのが目的でしたが、3回目の来坂は、第二次長州征伐の総大将として出陣が目的でした。目的地は大坂城ではなく姫路城でしたが、朝廷からの勅許が降りず大坂で長期間滞在する事となってしまいます。家茂の大坂滞在中に天神祭の船渡御が中止となり、民衆から不評を買いました。

④第14代将軍 徳川家茂 大坂城内にて病死

慶応2年(1866)6月7日、第二次長州征伐の戦端がようやく切られますが、7月20日、家茂は大坂城内本丸御殿で病気のため息を引き取ります。21歳でした。

4 第14代将軍 徳川家茂終焉の地(本丸御殿)

▶ 家茂が大坂城内で亡くなったことは非常に有名ですが、大坂城内のどこかについては、どの書物にも紹介されていません。天守閣は、寛文5年(1665)1月焼失して以来再建されていませんので、天守閣内でないことだけは確実です。

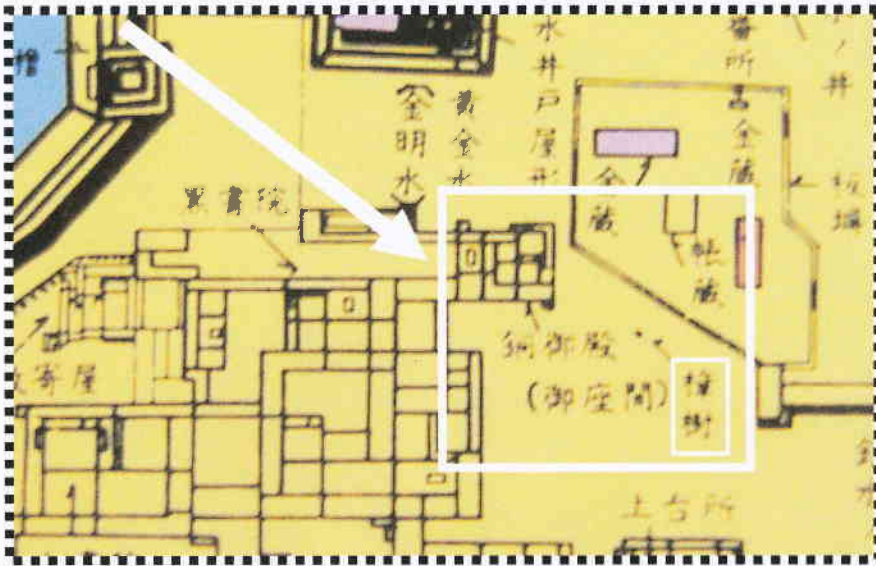
この当時、天守閣とともに壮大な規模を有する本丸御殿が築かれていました。

創建は寛永3年(1626)で天守閣焼失の際も、焼けずに幕末期まで残っていました。

この本丸御殿内に「銅御殿」と呼ばれる将軍の私的居間・寝所がありましたが、家茂が亡くなった部屋はここであるという可能性が非常に高いと思われます。

銅御殿の場所は下記図面をご参照ください。

図面に樟樹とありますが、現在、それに関する碑と樟樹(幕末の兵火で失われましたが、明治32年に植樹された木)があります。その位置から銅御殿の場所はやや北西になり、座石が置かれている辺りになります。



樟樹とその記念碑



樟樹から見た銅御殿跡



豊公お手植え樟碑



徳川家茂終焉の地